

本拠点における継続的な取組みについて

- ・この拠点が単にシンボルの創出に終わらないために、拠点だけで収斂しない仕掛けが必要。
- ・例えば、第 5 回検討委員会で提案したように、ロンドンのブループラーク※にならい、街を歩けば出会うような仙台独自のプラークを創ることを帯回してはどうか。

※ブループラーク

- ・その建物にかつて著名人が住んでいたことを示す青い看板。
- ・著名人の中にはモハメドアリや夏目漱石などもある。

- ・ロンドンでは「かつて住んだ著名人の名が書いてあるプレート」として誰もが知っており、「額縁」として広く認知されていることが重要。
- ・ブループラークのような統一した規格のプレートではないが、かつてゲッターがあったポーランドのクラクフでも、ユダヤ人の迫害状況等を記した金属板をあちこちで目にする。
- ・「東日本大震災で仙台の人たちがどう対応したのか」が書いてある共通のプレートをつくることで、場所によって異なる震災時の状況を伝える面的なシンボルを創ることができるのではないか。
- ・この拠点をセンターに、市民と一緒に伝えたいことを考える恒常的な実践として、プラーク作りが根付くとよい。
- ・プラークの増加が目的ではなく、一緒に考えながら更新して続けてもよい。
- ・一目で仙台のプラークだと認識されるような「額縁」を持ち、それが仙台に溢れているということがメモリアル拠点に帯回し、災害文化の不断の創出につながればいいのではないか。